

滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会
〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室
Tel/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

一般財団法人滋賀陸上競技協会
専務理事 坂 一郎

2019年度(令和元年度)も後期に入り、直前の「茨城国体」その後は、駅伝、マラソンのシーズンへと進んでいくことになります。高体連の報告にもありますが、沖縄インターハイでは、女子やり投げで木村玲奈(近江高)選手が52m84の記録で優勝、女子5000mWで菊田陽世(草津東高)選手が23'07"11の記録で第2位に入賞し茨城国体に弾みをつけてくれました。ただ、国体候補選手の出場した、近畿陸上競技選手権、高校近畿ユース、インカレ、全日本実業団各大会では、「まだまだいける」部分も見受けられたので、国体での活躍を期待したいと思います。

さて、「24年国民スポーツ大会主会場 完成遅れる可能性も」(京都新聞)、「国体主会場完成遅れも」(朝日新聞)等々新聞紙面に大きく掲載されています、彦根陸上競技場の工事の進捗状況ですが、設計も終了し、紙面にもありますように、入札が不調に終わり、入札再実施の状況です。県では20億円を上積みし、議会の承認をお願いしていると報じています。

滋賀陸協といたしましては、22年度中の完成と公認競技場としての認定を獲得することを強く要望をしております。23年度9月の近畿陸上競技選手権大会の開催を決定していきたいと考えています。どのような状況であっても第一種公認競技場の完成が23年度にずれ込むことができないことは、県も承知している事を報告いたします。

【 強化委員会 】

今シーズンも前半を終え、各全国大会が行われています。沖縄インターハイでは、女子やり投の木村玲奈選手(近江高校)が優勝し、女子5000mWの菊田陽世選手(草津東高校)が2位入賞を果たしました。9月には全日本ICや全日本実業団が行われ、10月の茨城国体へと進んでいきます。茨城国体滋賀県選手団29名は、本国体での目標達成へ向けて合宿や練習会に励んでいます。滋賀県代表として、目標達成へ向けて取り組んでいます。また、茨城国体と同時期開催の世界選手権(ドーハ)には、日本代表選手として桐生選手や河内選手が出場予定となっております、世界での活躍に期待したいと思います。

※写真は、茨城国体選手団結団式や合宿の様子



【 普及委員会 】

■第35回日清カップ全国小学生陸上競技交流大会

8月9日（土）、日産スタジアムにて行われました第35回全国小学生陸上競技交流大会に、県予選を勝ち抜いた14名が参加しました。

今大会より4×100mリレーが男女混合リレーに、またハードル・跳躍・投擲種目がコンバインドA（80mハードル&走高跳）・コンバインドB（走幅跳&ジャベリックボール投げ）という2種混合競技となり、今までよりも総合的な競技力や戦略が必要となりました。

全国大会当日は36度にもなる猛暑でしたが、超がつく程の悪天候だった県予選を勝ち抜いた選手たちは、大舞台でもそれぞれが現在の力を十分に発揮してくれました。

今回得た経験や感じた想いを2024滋賀国体へ繋げてくれることを期待しています。



【 高体連 】

2019年度全国高等学校総合体育大会 結果

6月13日～16日にヤンマースタジアム長居及びヤンマーフィールド長居において行われた、近畿IH地区予選において、男子6名、女子5名、計11名が全国IHの出場権を獲得しました。昨年は、皇子山陸上競技場で行われた近畿IH地区予選で32名が全国IHの出場権を獲得しましたが、今年はその半分にも満たないという厳しい結果でした。今後、この反省を踏まえ、より一層の強化に向けて一丸となり、日々励んでいきたい所存です。

全国IHは8月4日～8日に沖縄県のタピック県総合ひやごんスタジアムにおいて行われました。エントリーランキングでは、男子800mにおいて齋藤恵斗選手（甲西）が4位、男子3000mSCにおいて佐竹勇樹選手（比叡山）が7位、男子八種競技において河原秀弥選手（比叡山）が8位、女子5000mWにおいて菊田陽世選手（草津東）が4位と、4選手がトップ10に名を連ねていました。結果は、女子やり投において木村玲奈選手（近江）が52m84cm（今年度全国高校ランキング1位）という見事な記録で優勝、女子5000mWにおいて菊田陽世選手（草津東）が23分07秒11（今年度全国高校ランキング2位）で2位、とランキングを覆し、好成績を残す活躍をみせました。他にも決勝進出選手は多く、10月4日～8日に茨城県の笠松運動公園陸上競技場において行われる『いきいき茨城夢国体』での活躍が期待できます。

また、木村玲奈選手（近江）は日・韓・中ジュニア交流競技会における女子やり投の日本代表選手にも選出されており、更なる記録の更新と飛躍に期待したいです。



【 中体連 】

令和元年度全国大会では、男子3000mで安原海晴選手、男子4×100mRの松原中学チーム、女子4×1000mRの市立守山中学チームが決勝に進出し、市立守山中学チームが8位入賞を果たしました。また、惜しくも準決勝で敗退となりましたが、男子200mでは間瀬秀康選手（松原中）や谷智也選手（甲賀中）が準決勝で

善戦するなど、短距離種目を中心に滋賀県選手の今後に期待が持てる結果となりました。しかしながら、滋賀県から全国大会へ出場した選手の多くが短距離種目であり、ここ数年はフィールド種目において寂しい結果が続いていると言っても過言ではない状況です。

今後の課題点は、今年度も滋賀県勢としては短距離種目での全国出場が多く、他種目の強化が必要とされています。今年度の結果を踏まえ、来年度の全中に向けて多種目出場ができるように強化事業の継続と見直しが求められる。

【 マスターズ 】

小林新会長の決意

いま会長の重責を担い、陸上競技を愛し競技力向上を目指して活躍される皆さんや、健康・体力維持のためにマスターズ陸上に活路を求め、生涯スポーツの実践に取り組んでおられる方々と、共に活動できることに喜びを感じています。

滋賀マスターズは全国で最も遅れた連盟のスタートでしたが、前会長の下、役員をはじめ会員皆様のご努力により競技力、組織力共に日本有数の成果を上げることができました。今後も皆さんの英知を結集、ご協力を得ながらマスターズ陸上発展のために、努力する決意しております



2019年度滋賀スポーツ・レクリエーション祭マスターズ陸上競技大会模様

2019年5月26日(日) 標記大会が甲賀市陸上競技場で開催されました。参加者はマスターズ187名、小学生354名で昨年よりも多くの参加でした。新会長：小林優さんの挨拶後、10時からマスターズ5000mを皮切りに競技は始まりました。30度を超える酷暑の中、マスターズ選手や小学生選手が熱戦を繰り広げ、競技終了は16時でした。最高齢は男子では87歳の樋口元太郎さん、女子は80歳の宮前美代子さんと共に滋賀県選手であり滋賀県の平均寿命が日本トップであることがうかがえます。

本大会の特徴として小学生の選手数の増加と、競技レベルの向上が挙げられます。10年以上前の走り方は「かけっこ」であったように感じていましたが、近年のフォームはシニア選手を彷彿します。指導されている先生方の努力を目の当たりに感じているところです。東京オリンピックや滋賀国体に備えた選手層の拡大がたくましい限りです。

日本チーム400mリレーの記録が今シーズン世界最高を記録し、東京オリンピックの金メダルに近づいて来ました。そのけん引役は滋賀県が誇る桐生祥秀選手です。桐生選手に続く若い選手が滋賀県から続出し、日本のレベルアップに貢献して欲しいものです。

人生100年時代の長寿社会が到来します。滋賀県が日本トップクラスの平均年齢や健康寿命を維持するには滋賀マスターズ陸上の充実が欠かせないと思います。日ごろからの無理のないトレーニングにより健康寿命を延ばしていくことが私たちの課題です。今後も益々生涯スポーツをマスターズ陸上が牽引し、陸上競技の輪を広げていきたいものです。



【 編集後記 】

令和元年度、前半のシーズンの状況を掲載しました。あと一歩というところが多い状況、後半のシーズンは全国の入賞、日本代表での滋賀県選手の活躍を期待したいと思います。